

「地域産材でつくる」「自分でつくる」 生徒用つくえ組み立てプロジェクト

児童・生徒が学校で毎日触れるつくえに地域の材料を使用してもらいたい ―――。

ただ新しいつくえを配るのではなく、児童・生徒が自分でつくえを組み立てるワークショップに参加することで、組み立てたつくえに愛着が湧き、日常生活で使っていく中で、木を身近に感じてもらうことができます。地域で木材加工の技術をお持ちであれば、天板部をご提供いただき、耐久性の必要な脚部は内田洋行が提供するスチール脚と組み合わせて頂けます。また、地域の産業や資源循環を体感しながら学んでもらうことが木育※に、林業体験や間伐材を使用した教材などの木育プログラムと合わせることで、より効果的な環境教育につながります。

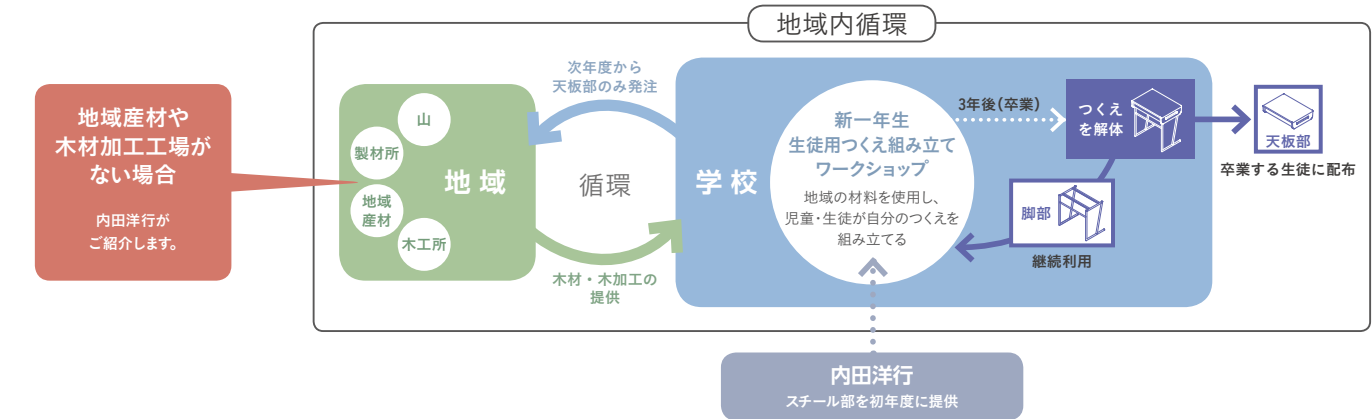
※木育とは
木材の効能を最大限に活かして人の育ちを支援する活動。木と関わることで、木に対する親しみや理解を深め、豊かな心を育みます。2004年に北海道から発信された新しい教育概念で、2007年より林野庁の「木づかい運動」の一環として取り入れられました。



生徒用つくえ組み立てワークショップの流れ（地域内循環）

児童・生徒が組み立てたつくえは、卒業の際に天板部を児童・生徒に持ち帰ってもらうことで、継続的に木に親しんでいただけます。つくえの脚部やいすはリユース(再使用)し、毎年新入生が入るたびに天板部のみを購入していただくことで、地域の産業に需要を生み出すことができます。

またお近くに地域産材や木材加工工場がない場合は、内田洋行が自治体の姉妹都市提携地域やその他の適切な地域をご紹介します、材の手配や木工をお手伝いすることも可能です。卒業時に、児童・生徒に配布する際には卒業証書などの賞状に加工して配布することも可能です。



AO series

アオ シリーズ
Designed by Taiji Fujimori

国産ひのき材を使用した家具のシリーズです。木部は地域産材を利用することも可能です。

※aoシリーズの詳細は、教育施設総合カタログ第23版をご覧ください。
※生徒用つくえといすは特注品です。詳しくはお問い合わせください。



ご使用に際して

〈素材について〉

本カタログ掲載の商品は、主に国産の針葉樹(杉、ひのきなど)を使用しております。素材の特性について予めよくご理解いただき、正しくお使いください。

- 硬度について
針葉樹は軟らかいため、打痕や傷がつきやすい素材です。そのため筆記具などの跡が残る恐れがあります。筆記の際は下敷きやデスクマットをご使用になることをお勧めします。
- 節について
針葉樹は広葉樹に比べて枝が多く、節が多く見られます。本商品では機能上、問題のない節は残して、パテ埋めを施しております。また節の数や大きさには商品ごとにばらつきがあります。
- 色について
本商品は天然木を使用しておりますので商品ごとに木目、色が異なります。
- 反りについて
針葉樹は吸湿性が高いため、使用環境の湿度と温度の変化によって若干の反りが発生することがあります。
- 経年変化について
天然木はお使いいただいている間にも呼吸をし、少しずつ変化をしていきます。使用環境がその変化に大きな影響を与えることを、予めご理解ください。
- ・色の変化
少しずつ艶色に変化していきますが、光の当たる量によって変色の度合い、スピードは異なります。
- ・変形/ 割れ
高温多湿の場所、直射日光の当たる場所などに設置しますと経年による反りや割れが発生しやすくなります。

〈地域産材への対応〉

木材の産地指定の場合は、当社営業担当へまずご相談ください。

UCHIDA

GOOD DESIGN AWARD 2015
BEST 100

地域産材で作る 自分で組み立てる つくえ

奈良県吉野町立吉野中学校の取り組み

木のこと





町の文化を大切に使う
吉野材で「生徒用つくえ」

奈良県吉野町

吉野町立吉野中学校

世界遺産の吉野大峯で知られる吉野町。吉野町唯一の中学校です。校舎の老朽化に伴い改築工事が行われ、良質の吉野材を用いて内装が木質化されました。美しい吉野の杉や桧の自然素材に包まれたゆとりの空間「ふれあいモール」は、学級・学年を越え、生徒・教職員みんなが自然に交流できるオープンスペースとなっています。また、吉野の産業を学び、モノづくりを体験する一環として毎年、灯りづくりに挑戦しています。



所在地：奈良県吉野郡吉野町河原屋 200 番地
構 造：RC 造・2 階建て
昭和 37 年 4 月 5 つの中学校を統合し、吉野中学校創立（創立 52 年目）
平成 21 年 8 月 新校舎改築工事 竣工

つくえ組み立てワークショップ

中学校生活の3年間を共に過ごす机だからこそ、地域や社会とのつながりが実感できるものを使ってもらいたいとの思いから、吉野の木材関係者の有志が集まる「Re: 吉野と暮らす会」が中心となり、デザイナーの藤森泰司氏、内田洋行と一緒に、2年半の歳月をかけて町ぐるみの「愛 学習机プロジェクト」に育て上げ、この生徒用つくえが誕生しました。生徒用つくえの脚部は、より丈夫で長く使えるようスチール製。天板部は

吉野の林業、製材、木材加工のものづくり集団が力を合わせて吉野ヒノキで製作。天板部は生徒本人だけのものとして、入学時に組み立て、卒業時には天板部だけはずして持ち帰るプログラムとなっています。この取り組みは、町の事業として今後も継続され、地域と企業、地域内の産業、大人と子どもなど、さまざまなものを結び付ける地域経済循環の新しい仕組みとなっています。



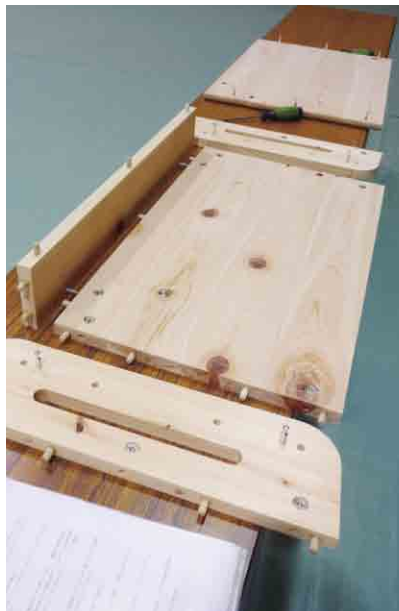
製作風景



教室にて



吉野の林業、製材、加工のものづくりを知る



生徒達が組み立てる天板キット



製作風景



製作風景



製作風景



教室にて



完成した天板をスチール脚に組み付けてもらう



完成したつくえを教室へ運ぶ

それぞれの立場から 木のことを語る



地域の立場から

	中井 章太 Akimoto Nakai 林業家 中神木材 / 代表 吉野町議会議員	石橋 輝一 Teruichi Ishibashi 吉野中央木材株式会社 / 専務
---	---	---

地域と学校がつながり続けるために

木の町「吉野」にふさわしい生徒用つくえを用意しようと考えたことがキッカケでした。さらに、吉野材の販路拡大も考えて、単に完成品を提供して終わりではなく、継続できるモノづくりの仕組みをつくり、それを広く発信したいという想いがありました。今回のプロジェクトの様に、学校と地域がつながり続ける仕組みは吉野町に限定されるものではなく、どの地域でもできることです。また、企業とつながることで活動が継続可能になり、多くの人に知ってもらえることが魅力であり価値だと思います。

学校の立場から

	紙岡 秀樹 Hideki Kamioka 奈良県 吉野町立吉野中学校 / 教頭	中東 郁雄 Ikuo nakahigashi 奈良県 吉野町立吉野中学校 / 校長
---	---	---

地域を知り、愛着が生まれる

今までは与えられるだけの環境下にあった生徒たちが、自分が3年間つかう“つくえ”の制作に関わり経験できたことで、ものを大切に扱うようになりました。そして、少子化が進む地域にとっても、地場の木材を使うことで、自分たちの地域産業を知り、その価値や魅力も知る良い機会になったかと思います。このプロジェクトを通して、教育の原点にも通じる、地域との「つながり」「愛着」が生まれたことはとても嬉しいことです。さらには、地域の産業を活かすような考え方ができる生徒が育ってくればと思います。

デザインの立場から

	藤森 泰司 Taiji Fujimori デザイナー 藤森泰司アトリエ / 代表
---	--

接着剤としてのデザイン

もともと学校家具に関心があり、次の構想をあたためていました。そのタイミングで「Re: 吉野と暮らす会」と内田洋行が繋がり、デザイナーとして参加しました。このプロジェクトでは、生徒達が継続的に木に親しめるように、卒業後も上部を取り外して自立した家具として使えることを考えました。“自分でつくる”というアイデアもそこから生まれました。ひとつのデザインが、地域と企業、地域内の産業、大人と子どもなど、さまざまなものを結びつける接着剤のような役割を担うことを目指しました。